



御指名ですので、高い所から乾杯の音頭を取らせて頂きます。本日は電子情報通信学会の100周年をお祝いして、本当にたくさんの方に参加して頂きました。主催者の一人として、感謝申し上げます。

末松先生の御講演の中で、電子情報通信の技術の進展が、横軸を年代、縦軸を対数尺として表されていました。ほとんど全ての性能が、直線に引かれていたこと、具体的にはおおむね全てが100年で10の8乗倍と進化していたことを思い出して頂きたいと思います。これが正しいとすると、次のお祝いの125周年のときには、今より大体100倍は成長しなくてはいけないこととなります。これは技術的には十分可能だと思っております。末松先生の最後のお言葉で、研究者は楽観的であるべきということを信じていますので。

電子情報通信学会はこれからも前を向いて進んでまいりますので、引き続き御支援をお願いします。

それでは、本会のますますの発展と御参加の皆様の御健勝をお祈りしまして、乾杯させていただきます。御唱和下さい。乾杯。



本日は、電子情報通信学会創立100周年記念式典並びに祝賀会に御参加頂きまして、誠にありがとうございました。以上をもちまして、本日の祝賀会を閉会したいと思います。

本日は、お忙しい中にもかかわらず御参加を頂きました。国の関係諸機関の代表各位、日本学術会議をはじめとする関係諸学会の代表の方々、本祝賀会の開催に多大なる御支援を頂きました産業界の関係者の皆様方に対しまして、改めて心より御礼申し上げます。

また、貴重な記念講演をして頂きました末松安晴先生はじめ御出席頂きました本会名誉員の諸先輩方及び多くの会員の皆様方にも、日頃からの本会への御支援御協力を含め、厚く御礼申し上げます。

100年前に、本会が創設された折には、まだ極めて細い社会の神経系でありました情報通信網が、1世紀の間に社会を支える最も重要な社会基盤となり、あらゆる社会活動を支える基礎となりましたことは、本会を支え続けてこられた会員諸先輩や関係の産業界、官界、学会関係者の多大なる努力の偉大な成果と誇ってよいと思います。現在、政府が政策の基本に据えているSociety 5.0の実現も、電子情報通信技術によって支えられるものがあります。

今後も、社会改革の原動力として電子情報通信技術はますます重要な役割を果たさなければなりません。我が国の社会や産業界の活性化、そしてあらゆる国民の生活の質の向上のために本会のますますの発展が期待されます。

最後に、本日御参加頂きました皆様方の御健勝とますますの御発展を祈念致しまして、閉会の言葉とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。